

備後撚糸とT-Xデザイナー塩谷氏

和紙糸でタオル商品化

イメージ覆す丈夫さ

裁断した和紙を撚って開発した「和紙糸」を素材に、テキスタイルデザイナーの塩谷栄一氏（京都市）と撚糸業の備後撚糸（広島県福山市）が共同で浴用タオルとショールを制作、23―25日に東京ビッグサイトで開催される「IFF」に和紙素材として出展する。和紙糸は丈夫で軽く、環境にも優しい素材で、3月から販売を本格化する。

和紙糸は、備後撚糸が糸加工業が厳しさを増す中、新たな展開を図ろう

と7年かけて昨夏、特許を取得した独自技術「水撚り製法」を駆使して開発、完成させたもの。幅1―3ミに裁断した和紙を特殊な溶液に浸しながら撚って糸に仕上げた。

撚糸機械のひねり方や複数の糸を撚ることで強度を変えることも可能で、1本の糸で綿糸と同等の強度があるという。同社ではデニム用の生地や紙糸だけの布、縦糸に綿糸を使った布なども制作した。化学繊維を使わない日

本らしい素材を探していた塩谷氏は、本紙の記事で、和紙糸の存在を知り、「水にぬれても破れず、実用化が可能」と判断、共同で商品開発を進める提案を呼びかけた。

約6カ月間で、和紙100%の紙布に塩谷氏がバラや牡丹など花のデザインを施したおしゃやれなものやデニム地のカジユアルなものなど数十種類のバッグを製作。さらに、NPO法人「京都もの創り作家の会」副理事長も兼務している関係で、知

人の染色業者に依頼、柿渋染めや藍染めを複数回経るとさらに丈夫さと光沢、つやが増すことも実感したという。

「和紙糸は綿糸に比べ高価だが、肌に優しく、軽く、耐久性もあり、浴用タオル（せつけんの泡立ちが良く、肌にも優しい感触で藍染め、友禅染め、手描き友禅、グラデーション、トレンドカラーの無地染めなど）やシヨール（和紙+ウール+綿の混率で温かく、柔らかで、手描き、友禅絞り



和紙糸使いのタオルを商品化

なり、和紙糸は従来の和紙のイメージを大きく変えるもの。時間がたてば土に帰る環境に配慮した優しい素材で、羽毛もななく、水の吸い込みや汗の吸い取りもよくアトピー対策にもうってつけ（塩谷氏）。

「ジーンズやバッグ、ジャケットだけでなく、きものや帯、タオル、シヨール、ブーツ、帽子用など用途も広く、新しい需要を創り出す可能性は高い。早い段階で、この素材が市民権を得られるようにいいものを創っていきたい。『ブロンライト』のブランド名でショップや通販、展示会等での販売を3月から本格化する」（備後撚糸、光成明浩営業部長）としている。